

平成16年度わかる授業創造プラン・授業改善研修会

美術科 学習指導案

日時 平成16年10月6日(水)

4校時 11:45~12:35

場所 種市町立中野中学校 美術室

指導学級 1年A組(男子20名、女子16名 計36名)

指導者 教諭 小田島 圭

1 題材名 絵画「ホップ!ステップ!ジャンプ!動物に変身!!」(ほり進み一版多色木版画)

2 題材設定の理由

(1) 題材について

学習指導要領・美術科の第1学年の目標(2)を受け、「指導計画の作成と内容の取扱い」の(2)アに、「第1学年においては、美術の基礎的能力を総合的に身につけられるようにする」とあり、第1学年の美術の学習は、生涯にわたって生きる力の基礎を培うものであると、とらえる。そこで、1学年の美術科学習テーマを、「様々な表現のしかたを学ぼう」とした。今回学習する彫りすすみ一版多色木版画は様々な表現のしかたの一つであり、A表現(1)の内容である。

木版画の制作は、下絵づくり・彫り・刷りの3段階がそれぞれに独自の内容を持ちながら、主題の追求という連続性を持って進められる。そのため、表現活動に必要な構想力や計画性などの能力を耕すことができる。さらに、それぞれのステップで、友達や教師と力を合わせて作業を進める場面が多く、人間関係の醸成の面でも教育的な側面が強い。

(2) 生徒について

表現力の個人差が大きく、制作の進度差も大きいので個別指導を要するが、自分の表現に妥協することなく制作し追求していこうとする姿が見られる。

生徒たちは小学校で一版単色刷りの木版画を学習している。版画を得意とする生徒は少なく、逆に苦手とする生徒は半数近い。彫り後がどのように刷りあがるのか予測するのが難しかったり、彫刻刀の使用が苦手であることを理由にあげている。彫刻刀の使用を苦手としている生徒は学級に3分の1ほどである。

生徒たちは入学してから、缶やペットボトルの水彩画、レタリング、粘土によるシャツづくりを学習している。それぞれの学習でスケッチも大切にし、缶やペットボトルの水彩画では立体感を出すスケッチをし、粘土によるシャツづくりでは布の柔らかさなどの質感やシャツをたたんだ時の布の重なりを意識してスケッチした。今後も題材毎にスケッチを取り入れ、スケッチに慣れさせ、自由にのびのびとスケッチできるようにさせたい。

(3) 指導について

今回の学習では題材名を「ホップ!ステップ!ジャンプ!動物に変身!!」とし、自分になりたい動物を主題とし、動物を中心に画面を構成することにした。背景にはその動物にふさわしい自然を表現することにした。

下絵づくりのスケッチでは、立体感や物の重なり、大小から遠近感を出させたい。また、下絵に色鉛筆で色をつけ、刷りのイメージ化を図りたい。

また、刷りあがりの瞬間の楽しみ、偶然の効果による表現上の新たな発見、線や面の力強さの魅力、紙に直接描く水彩画では表現できない版画的表現の魅力を体験させ、版画の持つ可能性と幅広さを学習させたい。

3 学習目標

(1) 表現したい主題を根気強く表現し、版表現のよさや美しさを楽しむ。(美術への関心・意欲・態度)

(2) 色の効果を考えた画面構成を工夫し、構想を練る。(発想や構想の能力)

(3) 彫りあとの効果を生かし、刷りの手順や技法を正確に行うなど版画の基礎的技能を身につける。(創造的な技能)

(4) 自分や友人の作品を鑑賞し、よさや美しさ、工夫しているところを感じ取り味わう。(鑑賞の能力)

平成16年度わかる授業創造プラン・授業改善研修会

4 指導計画(12時間扱い)と評価規準

時	学習活動	題材の評価規準 <評価方法>				
		A 表現			B 鑑賞	
		美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
		表現したい主題を根気強く表現し、版表現のよさや美しさを楽しむ。	色の効果を考えた画面構成を工夫し、構想を練る。	彫りあとの効果を生かし、刷りの手順や技法を正確に行うなど版画の基礎的技術を身につける。		自分や友人の作品を鑑賞し、よさや美しさ、工夫しているところを感じ取り味わう。
0,5	関心・意欲の喚起	説明を聞き、手順や技法を把握しようとする。 <観察>			単純化された版画のよさや美しさに気づくことができる。 <観察>	単純化された版画のよさや美しさを味わう。 <学習感想>
0,5	主題の決定		主題を決めることができる。 <学習シート>			
2	下絵づくり		動物に関連付けた背景をイメージできる。 <観察> <学習シート>	動物と背景を効果的に画面構成できる。 <学習シート>		
1	配色計画		三色での刷りあがりイメージできる。 <観察> <学習シート>	三色の効果を考えた画面構成ができる。 <学習シート>		
1	転写			転写のしかたを理解し効率的に行うことができる。 <観察・作品>		
1	彫り 1	根気強く彫りつけようとする。 <観察・作品>	黄色での刷りあがりイメージできる。 <観察・作品>	彫刻刀を使い分けて彫ることができる。 <観察・作品>		
1	黄色で刷る	刷りあがり鑑賞し、次に彫る場所を確認する。 <観察>		刷りの手順や技法を正確に行うことができる。 <観察・作品>		
1	彫り 2	根気強く彫りつけようとする。 <観察・作品>	赤を重ねた刷りあがりイメージできる。 <観察・作品>	彫刻刀を使い分けて彫ることができる。 <観察・作品>		
1 本時	赤で刷る	刷りあがり鑑賞し、次に彫る場所を確認する。 <観察>		刷りの手順や技法を正確に行うことができる。 <観察・作品>		
1	彫り 3	根気強く彫りつけようとする。 <観察・作品>	黒を重ねた刷りあがりイメージできる。 <観察・作品>	彫刻刀を使い分けて彫ることができる。 <観察・作品>		
1	黒で刷る	刷りあがり鑑賞し、仕上がりを確認する。 <観察>		刷りの手順や技法を正確に行うことができる。 <観察・作品>		
1	学習のまとめ				自分の制作を振り返り作品を鑑賞し、自己評価をする。 <観察> <学習シート>	作品を鑑賞し、よさや美しさ、工夫しているところがわかる。 <観察> <学習シート>

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・刷りの手順や技法を正確に行うことができる。(創造的な技能)
- ・刷りあがりを鑑賞し、次に彫る場所を確認できる。(美術への関心・意欲・態度)

(2) 具体の評価規準

評価規準	具体の評価規準		
	A十分満足できる	Bおおむね満足できる	C努力を要する生徒への手立て
刷りの手順や技法を正確に行うことができる。 (創造的な技能)	刷りの手順や技法を正確に行い、むらなく美しく刷ることができる。	刷りの手順や技法を正確に行うことができる。	刷りの手順や技法を指示しながら、できるだけ正確に刷らせる。
刷りあがりを鑑賞し、次に彫る場所を確認する。 (美術への関心・意欲・態度)	刷りあがりを鑑賞し、次に彫る場所を具体的に板に示すことができる。	刷りあがりを鑑賞し、次に彫る場所を確認する。	具体的に彫る場所を示しながらイメージを持たせる。

(3) 準備物

- ・教師 刷りの用具一式 新聞紙 彫刻刀
- ・生徒 筆記用具 彫刻刀 版画材料

(4) 展開

段階(時間)	学 習 活 動	支 援・評 価	留 意 点
導 入 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容の確認をし、学習シートに記入する。 ・本時の学習内容を確認する。 	支：今までの学習の流れを確認すると共に、前時までに黄色で刷った版画や版木を見て振り返らせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・紙板書 ・学習シートを配布しておく。
ステップ!黄色に赤を重ねて刷ろう!!			
展 開 (40)	1. 赤インクで刷りの二回目を行う。	評：刷りの手順や技法を正確に行うことができる。(創造的な技能) <観察・作品> 支：おおむね満足できる生徒へ ・丁度良いインク着けをさせ、むらなく美しく刷らせる。 支：努力を要する生徒へ ・刷りの手順や技法をを指示しながら、できるだけ正確に刷らせる。 支：三枚刷るまでに修正を加えて、根気強く工夫を重ねさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・彫り2が終わっていない生徒には彫りをさせる。 ・二種類の赤インクを準備する。 ・三枚刷ることを指示する。 ・二人組みになって刷りの能率化を図らせる。
	2. 刷りあがりを見直し、次に彫る場所を確認する。	評：刷りあがりを見直し、次に彫る場所を確認できる。(関心・意欲・態度) <観察> 支：おおむね満足できる生徒へ ・次に彫る場所を示させながらイメージを具体化させる。 支：努力を要する生徒へ ・具体的に彫る場所を示しながらイメージを持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・早く三枚刷り終わり、次に彫る場所を確認できた生徒には彫り3に入るよう指示する。
終 末 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習のまとめをする ・次時の学習内容を確認する。 ・後片付けを行う。 	支：本時で刷りあがった版画を見せる。 支：版木を見て次時で彫るところを確認させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習シートには次時に記入することを指示する。 ・用具は授業後に当番の生徒に片付けさせる。